

資料

管大同

「中国における資本主義商工業の社会主義改造」

——第八章「マルクス・レーニン主義の普遍的真理と

中国革命の具体的実践との結合の勝利」——

武藤守一

まえがき

これは昨年十月に北京を訪問した時、有力な経済学者であると同時に中央工商行政管理局副局長でもある管大同氏から贈られた『中国における資本主義商工業の社会主義改造』の第八章「マルクス・レーニン主義の普遍的真理と中国革命の具体的実践との結合の勝利」の翻訳である。中国の社会主義建設は革命後十五年を経て、その間に幾多の困難に直面しながらも、いよいよ急速な発展を遂げつつある。その理由の一つとして、革命前からあった資本主義商工業を改造しつつ実に巧妙に利用して社会主義建設に役立てたことを見落すことはできない。それは資本主義商工業に対する利用・制限・改造の政策であり、しかもそれは毛沢東主席が「マルクス・レーニン主

義の普遍的真理と中国革命の具体的実践を正しく結合した輝かしい範例である」と同時に、「資本主義商工業に對して社会主義改造を實行した経験は、マルクス・レーニン主義の理論的宝库を豊富にした」ともいわれている。

資本主義商工業の社会主義改造は、わが国における深刻な社会主義革命の一部である。中国共産党と毛沢東同志の指導の下で、この革命はすでに輝かしい歴史的勝利を獲得した。

中国労働者階級は帝国主義・封建主義・官僚資本主義の支配を覆えし、強大なプロレタリアート独裁の国家権力を創建した後、直ちに資本主義経済の中で最も重要であり、最大の比重を占めていた部分、すなわち独占的な官僚資本を没収し、それを社会主義の国营経済に変えた。さらに続いて、絶えず増大する政治的経済的優勢を利用し、資本主義経済のその他の部分、すなわち民族資本に対しては、社会主義的平和改造を進め、次第に資本主義的私有制を廃除し、民族資本家階級に対しては政治思想の改造を進め、次第に資本家階級を消滅して来た。経済戦線における社会主義革命はすでに基本的に完成し、資本主義は基本的に消滅した。政治戦線と認識戦線における社会主義革命もまた決定的な勝利をおさめ、資本家階級はいま労働者階級に転化しつつある段階にある。社

会主義革命の過程において、社会的生産力は引き続き解放された。社会主義建設は一路邁進しつつある。

マルクスとエンゲルスは社会主義革命について、かつて詳細な提案を行ったことがあり、彼らは次の如く指摘している。「プロレタリアートは自己の政治支配を運用し、一步とブルジョアジーの所有する全資本を奪取し、一切の生産手段を国家の手に集中し、すでに支配階級として組織化されたプロレタリアートの手に集中することによって、一層急速に生産力の総量を増加させることができる」と。⁽¹⁾ ロンヤ人民はマルクスの偉大な継承者および革命の指導者レーニンの指導の下で、まずマルクス主義の社会主義革命に関する原理を實踐した。レーニンは天才的にロンヤ十月革命の経験を総括し、資本主義から社会主義への過渡期に関する一列の原理を提起した。彼はかつて次の如く指摘している。「プロレタリアートの目的は社会主義を建設し、社会の階級分裂を消滅し、社会の全構成員を労働者とし、一切の搾取制度の基礎を消滅

することに⁽²⁾ある」と。レーニンの指導とボルシェビキ党の指導の下で、ソ連人民は勝利のうちにこの斗争任務を完成したのである。

中国の社会主義革命は偉大な十月革命の継続である。中国の社会主義事業はマルクス・レーニン主義を指針とし、一切の基本はすべて厳格にマルクス・レーニン主義の基本原理を遵守するものである。それは主としてプロレタリアート独裁を建設し、強大なプロレタリアート独裁の下で、計画的に国民経済を發展させ、社会主義経済の基礎を建設することであり、社会主義国有化と農業合作化を実現し、資本主義私有制と個人私有制を消滅することであり、資本家階級を消滅し、思想革命と文化革命を進めること々々である。わが国の社会主義革命の実践的勝利は、再度マルクス・レーニン主義の真理性と普遍性とを証明した。

中国共産党の指導する革命も、またわが国の具体的状況から出発し、發展的創造的にマルクス・レーニン主義の原理を運用し、革命のいろいろな問題を解決したものである。毛沢東同志の著名な概括的説明方法によれば、マルクス・レーニン主義の普遍的真理と中国革命の具体的実践との結合である。

資本主義商工業の社会主義改造は、党中央と毛沢東同志が創造的にマルクス・レーニン主義の普遍的真理をわが国の革命に具体的に正確に結合した輝かしい範例である。わが国が資本主義商工業に対して社会主義改造を実行した経験は、マルクス・レーニン主義の理論的宝库を豊富にした。

一、党中央と毛沢東同志は創造的にマルクス・レーニン主義の継続革命論と革命發展段階論との統一的原理を運用し、絶えずわが国の社会主義革命事業を發展させ、資本主義商工業に対しては漸次的に社会主義改造を進め、社会主義革命と社会主義建設とを結合させつつ、それらの相互促進作用を充分に發揮させた。

マルクスはかつて詳細に社会主義革命の科学的理論を闡明している。彼は一八五〇年に次の如く指摘している、「このような社会主義は継続革命の宣布であり、プロレタリアートの階級独裁の実現であり、このような独裁を必ず経過すべき過渡的段階となし、それによって根本的に階級差別の消滅を達成し、一切の生産にこれらの差別的生産関係を消滅し、これらの生産関係に適應したすべての社会関係を消滅し、これ

らの生産関係から生ずる一切の観念を变革することを要求する⁽³⁾と。レーニン⁽³⁾は労働者階級の革命運動に話が及んだ時、かつて次の如く説明した、「われわれは継続革命を主張する、われわれは決して中途で止めない⁽⁴⁾」と。さらに指摘する、「社会主義革命は一回の行動ではなく、一戦線上の一回の戦斗ではない⁽⁵⁾」と。革命は継続的であるが、しかし、それは段階を追って進むものである。これは一つの客観的法則である。革命の継続性はそれぞれ異った革命の発展段階の連続性であり、次から次へと進むものである。革命の段階性とは、継続革命の過程におけるそれぞれの革命段階の質的差別である。これは事物の発展が量から質へ、一事物から他の一事物へと不断に推移する過程を反映している。

毛沢東同志はマルクス・レーニン主義の革命発展段階論と継続革命論との統一原理を遵守し、中国革命における民主革命と社会主義革命、社会主義と共産主義の各段階相互の区別と相互接続の問題を解決し、同時にまたこの原理を一つの普遍的方法とし、創造的に各段階の革命工作を運用し、順序を立てて継続的に一過程から他の一過程へと進め、一勝利から他の一勝利へと向った。わが国における資本主義商工業の改

造は、実に毛沢東同志がわが国の社会主義革命においてこのような思想を運用した一範例である。

民主革命において、毛沢東同志は一方では、「民主主義を経過してのみ、社会主義に到達することが出来る⁽⁶⁾」という原理を堅持し、民主革命と社会主義革命とを厳格に区別して来た。彼は全国人民に、民主革命の牙先は帝国主義・封建主義および官僚資本主義に向けるべきであって、一般的に資本主義と生産手段の私有制を消滅することに向けるべきではないと訴えている。他面では、また民主主義革命は社会主義革命の必要な準備であり、社会主義革命は民主主義革命の必然的趨勢であることを堅持している。彼は全国人民に、民主革命を徹底的に進め、条件の具備する時期を準備し、それを社会主義革命に転化させる必要がある、と訴えている。一九四九年に中華人民共和国の成立後、党と政府はなお全国人民を指導して民主革命段階で残された任務を徹底的に解決する必要があったけれども、直ちに社会主義への過渡期を開始した。一方においては、国家の力量と広大な大衆の支持によって、官僚資本を没収し、確実に国家経済の動脈を掌握し、積極的に強大な社会主義的国营経済を建設し、さらにこの経済を国

民経済における指導的地位にした。他方においては、国家権力と社会主義経済の力量に依拠して、資本主義商工業に対しては利用・制限・改造の政策を實行し、それを国家行政機関の管理・国営経済の指導および労働者大衆の監督する軌道におさめ、系統的に彼らに対して社会主義改造を進める条件を創造した。

一九五二年末に、国民経済の恢復および封建的残滓を肅清する任務が基本的に完成した後、党中央と毛沢東同志は過渡期の総路線、すなわち社会主義革命と社会主義建設とを同時に進める総路線を提起し、全国的範圍において次第に農業・手工業および資本主義商工業に対する社会主義改造を實現し、次第に国家の社会主義工業化の任務を實現することを規定した。この総路線の提起は、明確に社会主義への路線・任務および方法を示しており、力強く各種のブルジョア的観点を批判し打撃し、革命隊列内部の錯誤思想を肅清し、全国人民が堂々と社会主義への邁進を鼓舞するスローガンとなった。劉少奇同志はかつて次の如く指摘している「当時、ある人々は社会主義への過渡期の必要性を否認した。彼らのある者は中国における資本主義への発展、すなわち資本主義への古い

道を企図しようとした。ある者は革命を停止し、長期にわたって既存の社会主義経済および資本主義経済の現状を保持しようとして企図した。党のマルクス・レーニン主義的総路線は資本主義から社会主義への過渡期の必要性を肯定し、したがって右翼的な面からする各種の錯誤した観点を否定した。同時にまた、党のマルクス・レーニン主義的総路線は社会主義への過渡期は必ず漸進的であるべきこと、資本主義商工業に対する改造もまた漸進的であるべきことを肯定し、したがって一朝にして資本主義を完全に消滅しようとして企図する左翼的な錯誤した観点をも否定した」と。過渡期総路線の輝やかしい光の下で、党と政府は時機を失せず一系列の社会主義改造の措置を採りつつ、資本主義商工業の改造を停頓することなく一歩一歩と前進させ、遂に一九五六年には社会主義改造の高潮期に達し、基本的には生産手段の所有制の面での社会主義革命を完成したのである。

経済戦線における社会主義革命の基本的完成は、一方では資本家階級の政治的立場、および彼らの政治思想の影響と社会主義の経済的基礎との矛盾を表面化させ、社会主義建設の主要な障害となった。他方では、また資本家階級の政治的立

握し、改造中において適当な順序と方法を採用し、それによって生産関係の漸次的変化と大衆意識の漸次的昂揚の必要に適應するようにした。たとえば所有制の改造においては、二つの順序を経たのであり、第一歩は資本主義を指導して国家資本主義に転化することであり、第二歩は国家資本主義を社会主義に転化することである。国家資本主義の発展においても、一般的には初步的形式の加工子約・委託販売代理販売などを経て、高級形式の公私合営に至り、そして最高形式の全業種にわたる商工業の公私合営および定息の実行に至るなど一系列の段階がある。それぞれの改造形式は、一定の生産関係を代表し、一定段階の社会的生産力の発展と大衆意識の要求に適應している。各改造形式はまた長期にわたって留まることはできず、それは絶えず一層高い段階に移行し、所有制の革命を最後に完成しなければならない。同様に、政治戦線・思想戦線の社会主義革命においても、党と政府は階級斗争の具体的状況に適應して、一系列の思想教育と大衆運動を展開し、それをジグザグ式に前進させ逐次的に深めさせたのである。一九五〇年から一九五五年の間の如く、前後して土地改革・抗美援朝・反革命肅清・三反五反および知識分子の

思想改造運動を進め、また一九五七年から一九五八年には反右派斗争および整風運動を進めた。五大運動は資本家階級が帝国主義・封建主義および官僚資本主義の政治思想の影響を肅清するように援助し、中国人民と三大敵との政治思想の限界を一層明確にしたが、これは資本家階級の政治思想の改造についていえば、深刻な意義をもっていたことは疑いない。反右派斗争と整風運動もまた、わが国の社会において資本家階級の政治思想的影響を弱め、資本家階級が社会主義と資本主義との政治思想上の限界を明確にするように一層援助したが、これは資本家階級の政治思想の改造に対して直接的に深刻な意義をもつものであった。

社会主義改造期、あるいは社会主義建設期において、わが国の社会主義革命と社会主義建設とが常に結合して進められたことはいうまでもない。これはマルクスのいう「革命は歴史の機関車である」という思想、すなわち社会主義革命の前進発展は、絶えずわが国の社会主義建設の高揚を推進しつつあることを正確に表現しているだけでなく、また社会主義革命と社会主義建設は相互条件・相互促進の作用を充分に發揮していることを表現するものである。社会主義経済は全国民

経済に対する社会主義改造の物質的基礎である。強力な社会主義経済の力があつて初めて、各種の私有制経済を社会主義経済に依拠させ、それらに所有制改造の実現を促進させることができるのである。一九五六年の全業種にわたる資本主義

商工業に対する改造の高揚は、社会主義経済の強大な発展によつて、大部分の工業原料、商品源泉および販売市場を掌握し、逐次的に資本主義商工業を国家資本主義の軌道に納めたことによつて到達したのである。同時に、社会主義経済の迅速な発展・社会的生産力の高揚は、さらにわが国の社会主義と資本主義との間の矛盾と斗争を次第に深め、逐次的に解決した。社会主義建設は社会主義制度の優越性を顕示し、幾千幾百万の人々に対する巨大な吸引力を生み、さらに社会主義改造事業を推進した。他方、資本主義商工業は次第に社会主義改造を実行し、社会主義経済はそれらとの連系を通じ、この部分の生産力を利用して、社会主義経済の力を増強することができた。同時に、国家資本主義という形式の発展と高揚につれて、次第に国民経済における社会主義的生产関係は拡大し、社会主義経済法則が発生する作用に代つて広汎な場所を開拓し、かくして社会的生産力の発展に有利となり、社会

主義建設事業を促進した。一九五六年には私有制の改造は基本的に完成し、かくして国民経済の発展の巨大なる高潮が出現したのである。

政治戦線および思想戦線における社会主義革命と社会主義建設との関係もまた、相互関連、相互推進の関係にある。一九五七年の資本家階級右派に対する斗争と全人民的整風運動は国民経済の大躍進を促進した。国民経済の大躍進、社会主義建設の発展は、また政治戦線と思想戦線における社会主義革命をさらに進めるよう要求し、資本家階級の積極性を調整発揚して社会主義建設に奉仕させるよう要求し、さらに実践中の資本家階級に対する根本的改造を継続して進めるよう要求した。

正に党中央と毛沢東同志が、継続革命論と革命発展段階論との統一的原理を創造的に、わが国の社会主義革命に運用し、しかも社会主義革命と社会主義建設とを結合して進め、それらの対立的統一の相互促進作用を充分に發揮したことにより、わが国の資本主義商工業の社会主義改造は迅速・順調かつ健全な発展を遂げることができ、絶えず一つの勝利から他の勝利へと進むことができたのである。

二、わが国の社会主義革命において、党は毛沢東同志のわが国における社会各階級についての卓越した分析と二つの矛盾に関する著名な学説に基き、敵との矛盾を処理する原則によって労働者階級と独占資本家階級すなわち官僚資本家階級との間の矛盾を処理し、人民内部の矛盾を処理する原則によって労働者階級と中小資本家階級すなわち民族資本家階級との間の矛盾を処理する一般的方法を創造した。

全面的・具体的に階級と階級との矛盾を分析し、正確な階級斗争路線と階級矛盾を分析し、正確な階級斗争路線と階級矛盾を規定したことが、中国共産党がわが国の革命を指導する基本的出发点であった。「誰がわれわれの敵であるか、誰がわれわれの友であるか、この問題が革命の主要問題である」⁽⁸⁾早くも一九二六年に、毛沢東同志は「中国社会における各階級の分析」という論文の中で、中国無産階級の最も広大で最も忠実な同盟軍は農民であることを指摘し、中国革命における最も主要な同盟軍の問題を解決すると同時に、買弁資本家階級すなわち大資本家階級と中産階級すなわち民族資本家階級を区別する論点を指摘し、さらに詳細

に民族資本家階級の革命に対処する態度の二面性を分析し、彼らの革命高揚期における分化と動揺を予見している。一九二七年に発生した資本家階級の反革命事件はこの点を実証している。この事件以後、蔣・宋・孔・陳の四大家族を中心とする中国官僚独占資本家階級が形成され始め、資本家階級の分化は深まり、民族の危機は激化した。この時期に、毛沢東同志はわが国の条件の下における民族資本家階級の革命的な面と妥協的な面とをさらに分析し、党は民族資本家階級に対する連合と斗争の政策を確立し、次第に抗日民族統一戦線と人民民主統一戦線とを打ち建てた。これは革命の力を増強し、敵を孤立させ、わが国の民主革命を一層順調に完成させることを可能にした。

中華人民共和国の成立以後、わが国は社会主義革命の段階に進み、労働者階級と資本家階級との間の矛盾が国内の主要矛盾となり、資本家階級は社会主義革命の対象となった。この時期においても、官僚資本家階級は依然として人民の敵であること、この一点は疑う余地がなかった。しかし、労働者階級が民族資本家階級との関係をどう処理するかの問題は、社会主義革命を指導し正確な階級斗争路線を確定するために

は極めて重要なポイントであった。党中央と毛沢東同志はわが国の歴史的條件に基き、わが国の民族資本家階級は社会主義革命において二面性をもち、官僚資本家階級の反動政治支配が顧慮され彼らの生産手段が没収された以後においては、民族資本家階級は社会主義改造を受容する可能性があると評価した。一九四九年に毛沢東同志は「人民民主專政を論ず」という論文の中で、官僚資本家階級という反動派に対しては独裁の方法を用いる必要がある、民族資本家階級に対する問題を含めて、人民内部の問題を解決するには、「民主的すなわち説得の方法」を用いる必要があると指摘している。一九五〇年に彼は中国人民政治協商會議第一期全国委員会第二回會議における講話において、この区別をさらに進めて説明している。

建国以来、わが国は毛沢東同志の分析によれば、社会主義革命における最も重要な問題、すなわちフロレタリアート独裁・資本主義所有制の廢除・社会主義国有化の実現などの問題において、一面では、独占的大資本家階級に対しては独裁と強制的没収を実行し、他面では中小資本家階級に対しては団結と斗争の原則にしたがって説得教育と質戻し政策を実行

し、しかも両者を正しく結合して進めることを創造的に採用した。

わが国の実践は、この政策が完全に正しかったことを証明している。この両面は相互促進的である。大資本家階級に対する独裁と没収は、民族資本家階級が社会主義改造を受容する可能性と、民族資本家階級の団結を促進し、また大資本家階級を孤立に陥らせ、彼らに対する独裁の実行を有利にした。同時に、この方法の採用は、資本主義と資本家階級の徹底的消滅に有利であった。この方法の採用は、所有制の变革における生産力の破壊と生産および交換が停滞にあり可能性を免れさせ得ただけでなく、改造中において資本主義経済を利用し、一切の積極的要素を動員し、社会主義建設に奉仕させることができた。

一九五七年に、毛沢東同志は社会主義制度の下における各種矛盾に対する精密な分析に基き、著名な「人民内部の矛盾を正確に処理する問題について」という講話を発表し、社会主義社会における敵との矛盾および人民内部の矛盾という二つの異った矛盾についての学説を提起した。彼は明確に次の如く指摘している、民族資本家階級は帝國主義、地主階級、官

僚資本家階級とは異っており、労働者階級と彼らとの矛盾は人民内部の矛盾に属し、労働者階級と彼らとの階級斗争は一般的に人民内部の階級斗争に属する、と。さらに民主革命の時期における中国の階級矛盾の科学的分析を一層進め、矛盾転化の理論を提起し、重ねて矛盾処理の問題を提起した。彼は指摘している。もし労働者階級が不当に処理し、民族資本家階級に対して団結・批判・教育の政策を採らず、あるいは民族資本家階級がこの政策を受容しないならば、その結果として労働者階級と民族資本家階級との矛盾は敵との矛盾に変化するであろう。これは、わが国の歴史的条件によれば、労働者階級と民族資本家階級との間の矛盾は人民内部の矛盾となり平和的解決の可能性をもっているけれども、もしこの可能性を現実に変えようとすれば、われわれの主観的努力に待っただけでなく、矛盾に対する正確な処理に頼らねばならないことを大衆に成めているのである。すなわち、可能条件が具備した後においては、主観的能动性が主要なものとなり、正確に方針と政策を規定し執行し正確な斗争形式を採ることが主要なものとなるのである。

十余年来、中国の労働者階級は党の指導下にあつて、常に

プロレタリア独裁を強固にし、労働同盟を強化し、優先的に社会主義経済を發展させ、革命の力を次第に高め、「無産階級興隆・資本家階級消滅」の巨大な勢力を形成した。同時に、各種の政治社会運動の中に資本家階級の参加を吸収し、投機反対斗争・五反運動および反右派斗争においては資本家階級の違法行為および右派分子に対し断固たる打撃を与え、これらの運動と斗争を通じて、資本家階級を教育し、さらに改造の実践およびその他の方式を通じて彼らの積極面を批判した。他方、政治上においては民族資本家階級の政治的権利を剝奪せず、さらに適当に彼らの代表を人民民主独裁の政治工作に参加させた。経済上においては国家資本主義を通じて漸進的な過渡的弁法を採用し、さらに民族資本家階級に対しては買戻しを實行し、両者を顧慮する方針を堅持し、異った時期には異った措置を採り、彼らの合理的利益を顧慮した。これらを通じて、彼らの積極面を鼓舞し、彼らの積極的要素を動員し、国民経済の恢復に奉仕させ、社会主義建設に奉仕させた。これらはすべて、団結と斗争の原則にしたがい、正確に階級矛盾を処理することによって社会主義改造の勝利する条件をかち得たものである。

党の資本家階級に対するこのような區別待遇の政策は、矛盾の普遍性と特殊性との弁証法的關係を正確に掌握したものであり、正確に矛盾の異なる地位を掌握し、創造的にマルクス・レーニン主義の階級斗争學說を中国革命の具体的実践に結合した結果である。毛沢東同志は階級分析において、従来から經濟要素・生産關係の要素だけを孤立させて把えず、また従来から各階級だけを孤立させて分析せず、たとえば彼は著名な「矛盾論」で説いている如く、「事物の發展過程の各段階における矛盾の特殊性を研究することは、必ずその関連において、その総体において觀察することが必要なだけでなく、各段階における矛盾を各方面から觀察しなければならぬ」。続いて、彼は中国共産党と国民党との間の連合と斗争を例とし、分析を進め、説明していう、「必ずこの兩党の階級的基礎を研究し、かくして、各時期に形成されたそれらおよびその他の面での矛盾の対立をも研究しなければならぬ」⁽⁹⁾と。毛沢東同志の階級分析の方法は、また従来から搾取階級を一枚岩と看なさず、具体的にその各階層・各集団を分析し、その左翼と右翼を摘出し、その中間勢力を摘出し、労働者階級が獲得し、動員し得る積極的要素と、必ず打撃を与えねば

ならない消極的要素とを摘出することである。すなわち、階級分析は、ただ階級矛盾の闘争性を看取するだけでなく、それらの間の同一性、それらの相互滲透・相互転化の可能性を看取しなければならぬ。毛沢東同志は「矛盾論」において、また無産階級と資本家階級・共産党と国民党を例とし、この問題を説明している。「どんな人の頭脳でも対立を見なければ死んだ、凝固したものとなる。したがって生々とした、条件的な、可變的な、相互転化のものにしなければならぬのではなからうか。何となれば客觀的事実は本来かくの如きものであるから」⁽¹⁰⁾と。毛沢東同志のこのような思想は具体的状況を具体的に分析するマルクス・レーニン主義の生々とした精神を深刻に表現しており、マルクス・レーニン主義の原則性と適応性を高度の調和と統一にまで到達させている。

帝國主義時代においては、資本主義は分化して独占資本と中小資本（植民地・半植民地国家においては買弁資本と民族資本）となり、資本家階級は分化して大資本家階級と中小資本家階級（植民地半植民地国家においては買弁階級あるいは官僚買弁階級と民族資本家階級）となり、それはすでに益々一つの普遍的現象となっている。中国における社会主義革命

の實踐は、プロレタリア革命の一つの新しい面での経験を提
供した。

現代修正主義者は次のように考える。現代の独占資本の中
にはすでに「社会主義的要素」があつて、平和的に「社会主義
時代」へ進むことができる。このようにして、彼らは「階
級調和」を主張し、労働者階級と、資本家階級との間の敵し
い階級闘争に反対し、プロレタリア革命とプロレタリア独裁
に反対する。わが国の民族資本主義商工業に対する社会主義
改造は、平和的方式を通じて実現されるものではあるが、し
かし、このような社会主義改造は、共産党の指導する労働者
階級とその他の労働人民が武装して帝国主義の走狗、すなわ
ち封建地主と大資本家階級の支配を顛覆し、さらに彼らに対
して独裁を實行し彼らの生産手段を没収したことが前提とな
っている。わが国が民族資本家階級に対して平和的改造を實
行したのは、實質的には封建地主と大資本家階級に対する暴
力的没収の補充である。わが国が人民内部の矛盾を処理する
原則を用いて過渡期における労働者階級と民族資本家階級と
の間の矛盾を処理したのは、わが国におけるプロレタリア独
裁の下における階級闘争の一つの特殊な形式である。かくし

て、わが国の社会主義改造は、現代修正主義者の妄言と何ら
共通するところがない。

社会主義革命の事業において、プロレタリア独裁の要
要・反革命の反動資本家階級に対して没収と鎮圧を實行する
ことの要不要は、共産主義者・マルクス主義者と一切の反マ
ルクス主義者との根本的な分岐点である。レーニン「階級
闘争を承認し、同時にプロレタリア独裁を承認する人のみが
マルクス主義者である。マルクス主義者と俗流的フチ・ブル
階級（大資本家階級に至るまで）との間の最大の区別はここ
にある」と述べている。わが国における社会主義革命の偉大
な勝利は、実践的にマルクス・レーニン主義の真理を証明し、
現代修正主義者の反動的本質を暴露した。

三、わが国における資本主義商工業改造の勝利は、マルク
ス・レーニン主義のプロレタリアート独裁の下で採った国家
資本主義に関する政策の正確性を実証し、さらにその実践に
おいて、プロレタリアート独裁下の国家資本主義の性質を一
層明確にし、その作用を充分に發揮し、わが国の条件に適合
した一列の国家資本主義形式を創造し、各種形式の発展の

法則性を明示した。

わが国の国家資本主義は社会主義経済の指導の下にあるものであり、社会主義経済部分と資本主義経済部分とのいろいろな程度における連系と連合の形式である。それは労働者階級と民族資本家階級との経済上における連盟である。このような連盟は社会主義革命における両階級の連合と闘争との統一戦線の一内容であり、労働者階級と資本家階級との間の一定の階級関係を表現している。このような連系と連合の目的は、正に逐次的に資本主義経済を改造して消滅し、これを社会主義経済に変更させることである。このようにして、それはわが国の条件の下で、階級闘争を進める一つの特殊な形式である。

わが国の経験は、資本主義から社会主義への過渡的経済形式として、プロレタリア独裁下の国家資本主義は、どのような形式を採ろうとも、実質的には資本主義と社会主義との二種類の経済部分の連系と連合とならざるを得ず、この二種類の経済部分の対立的統一物とならざるを得ないことを証明している。

わが国における国家資本主義においては、生産関係のこの

管大同『中国における資本主義商工業の社会主義改造』

ような変革は社会主義経済部分を通じて企業外部から企業内部に進入し、企業内における指導的地位を占め、逐次的に資本主義部分を改造し、最後には完全に資本主義部分に代ることによって完成するのである。これは国家資本主義の発展過程でもあり、社会主義経済部分と資本主義経済部分との闘争過程でもある。この闘争は必然的に社会主義経済部分の勝利と資本主義経済部分の消滅とによって終りを告げるのであるが、それは社会主義部分が強大なプロレタリア国家の権力を保証とし、強大な絶えず発展する全人民的所有制の生産を基礎とするものであるからである。この闘争において、社会主義は常に矛盾の主導性を握っているのである。

国家資本主義の過渡期的性質はそれが停止することはできないという一つの形式の上で決定されている。わが国においては、まず民族資本主義商工業を改造して国家管理・国营経済の指導および労働者大衆の監督下にある資本主義商工業とし、かようにして、それらは一般的な個人資本主義とは異なることになるのである。しかる後に、社会主義経済部分と資本主義経済部分との企業外部での連系が逐次的に発展しこの二種類の経済部分は企業内部における連合となるのである。す

なわち国家資本主義の初級形式である加工子約・委託販売・代理販売などにより逐次的に高級形式の公私合営に移行するのである。しかし個別企業の公私合営は決して私有制を消滅するものでなく、根本的に社会主義と資本主義との矛盾を解決することもない。かくしてこのような公私合営企業は依然として停止することはできず、必ずさらに高い形式に移行せねばならない。このような更に高級な段階においては、全業種の公私合営企業は一定期間資本家に対して定息を実行する。このような形式は、依然として国家資本主義の名義を保つけれども、しかし性質上はすでに基本的には社会主義的全人民所有制の企業になってしまっているのである。

国家資本主義が低級な形式から高級な形式に逐次移行するのは一つの客観的必然であって、国家資本主義はこのような対立的統一体自身としての規定性である。しかし、このような移行は自発的に実現するものではなく、社会主義制度の下においては、共産党と労働者階級が意識的に生産関係は生産力の発展に適應すべきであるという法則を掌握し、意識的にわが国の条件下にある階級闘争の法則を掌握し、マルクス主義の継統革命論と革命発展段階論の視点をその工作の中に貫

徹させる結果である。国家資本主義に含まれる資本主義と資本家階級にはこのような盲目的であり對抗性をもつ力があることよって、このような移行は一つの複雑な階級闘争の過程とならざるを得ないので、必ず指導的・計画的・漸進的に進める必要がある。生産関係改造のある段階で満足せず、若干の矛盾の一次的緩和に満足せず、必ず逐次的にそれをさらに高い段階に指導しなければならぬ、適當な条件下においては、たとえば一九五六年に全業種の公私合営が高潮期にあった時の如く、国家資本主義は躍進の形式でさらに高い発展段階に推進しなければならぬ。そうしなければ、生産力の発展を阻害し、労働人民の社会主義的積極性を損い、全社会主義革命の歩みを破壊するであらう。条件の具備しない時には、国家資本主義は現在の形式を遙かに越えた早急な引上げを防止しなければならぬ。これは労働者階級の中にも時としてやや焦躁ムードが現われるだけでなく、資本家階級の中にもまた常に若干の盲目的な衝撃力が現われるからである。たとえば公私合営の高潮期の前に、ある資本家は「無一物」となり、企業の損失あるいは困難を政府に転嫁するために急いで公私合営を要求したことなどがあった。

国家資本主義の目的は漸次的に資本主義の生産関係を改造することにある。ただし、このような改造形式は、直ちに資本主義を消滅せず、資本主義の積極性を利用し、その消極性を制限する作用を十分に發揮することにある。このような改造中においては、資本家を生産の外に排除せず、資本家階級の積極的要素を十分に發揮させ、彼らの消極的要素を批判することができる。国家資本主義は実際上は資本主義経済の生産関係を改造すると同時に、この部分の生産力を組織し・利用し發展させ、その活動に対して管理と監督を進める一種の経済形式である。かくして、国家資本主義は党が資本主義商工業に対して利用・制限および改造政策を実現するよい手段となり、資本家を教育する学校となるのである。わが国の実践において、国家資本主義のこのような作用を十分に發揮することができたこと、さらにそれらを相互に結合させることができたことは、党の高度な指導芸術を表現している。わが国の経験は、国家資本主義に、これらの作用を十分に發揮させるには、必ず企業内部に有力な労働者の監督を確立し、社会主義部分を企業内部の労働者大衆の力と結合させることにあることを証明している。なお一系列の経済上・政治上・法

律上・思想意識上の措置と大衆運動を採らねばならない。そのうち最も主要なものは、正しい価格政策と利潤政策であり、すでに搾取を制限することができる以上は、同時に資本家階級の合法的利益を保證することも必要である。大衆を動員して改造拒否と違法な投機行為を監督し打撃し、正当な経営を保護し、資本家に対してはいろいろな形式の教育を進める必要がある。国家資本主義の發展に対しても両者を顧慮する方針に基き、全面的規制と適当な安排をしなければならぬ。国家資本主義の各段階においては、特にそれが高級段階に達した以後においてもなおそれらに対して企業改革（主として社会主義の経営管理制度に資本主義の経営管理制度を代えること）経済改組（主として生産力組織と生産力配置を改善すること）を進めねばならない。このような改革と改組は、生産関係改造の継続である。

現在では、国家資本主義はすでに一つの普遍的な経済現象となっており、性質の異なる国家でも、すでにこのような形式かあるいはあのような形式の国家資本主義として、支配階級に奉仕している。しかし、われわれは絶対に資本主義制度の下における国家資本主義と社会主義制度の下における国家資

本主義とを区別し、この両者の混淆を許してはならない。

資本主義国家においては、ある国家は国家の財政予算を通じて、一定の国有企業をもっている。ある国家は若干の工業部門で「国有化」を実行している。国家は軍需物資の購入を通じて社会的生産を調節し、若干の私営企業の経済活動に対して行政監督と管理を行うことが普通のことになっている。

資本家階級の弁護論者たちはこのような状況を大いに宣揚し、帝国主義段階におけるブルジョア経済学の創設者ケインズは極力このような「投資会社化」を鼓吹し、さらに多く「国有企業」をつくれれば、充分に就業を達成し、危機を解消することができ、資本主義を「健全」にすることができると考えている。現代修正主義者は帝国主義に代って骨折り、意識的に資本主義制度と社会主義制度の限界を混淆し、国家資本主義という概念に対して恥知らずの歪曲を行っている。彼らは社会主義の全人民的所有制に反対し、この現代経済において最も進歩的な生産関係に対して、勝手な誣蔑を加え、社会主義国家の全人民的所有制もまた一種の「国家資本主義」であり「社会的所有制の最低形式」であり、「官僚主義と国家主義の歪曲を生み出す経済的基礎」であるとす。他方、彼らは

帝国主義国家と資本主義国家の国家資本主義に対して大いに宣伝し、このような国家独占資本主義は「社会主義的要因」であり、資本主義社会制度を突破する突破口であり、その発展は「社会主義の要因を強化」し「私的資本主義の作用を制限」するものである、すなわち「資本主義生産方式の消滅」であるとしている。彼らは極めて恥知らずにも断言する、

「資本主義世界の国家資本主義への急激な発展趨勢は、人類が正にこのような途を通じて不可避免的に社会主義時代に深入することを極めて明らかに証明しているのである」と。

マルクス主義者は従来から次の如く考えている。すなわち社会主義の全人民的所有制は人類の有史以来の最も進歩した生産関係である。その出現は、一切の搾取制度が不可避免的に消滅の運命にあることを宣告し、それは全人類にとって社会主義と共産主義が最もよい未来であることを表わしている。かくして、全人民的所有制が帝国主義者とその走狗の反対に遭うのは、絶対に偶然なことではないと。

マルクス主義者は従来からも国家資本主義経済は一種独立の経済形態ではなく、それは全保社会の政治的条件および経済的条件に従属するものであると考えている。換言すれば、

それが存在する国家の性質と社会経済的条件が国家資本主義の性質と作用を決定するのである。プロレタリア独裁という条件の下にある国家資本主義は、労働者階級の国家にのみ従属し、労働者階級が資本主義経済を消滅し、資本家階級を消滅する事業に奉仕することができる。同様に、ブルジョア独裁の国家にあつては、どのような形式の国家資本主義であつても、ただ資本家階級に従属し、資本家階級が労働者およびその他の労働人民を搾取することに奉仕することができるだけである。

ブルジョア独裁という条件の下における国家資本主義の出現と強化は、資本主義の本質に何らの変化のあることを毫も意味しない。資本家階級の国家資本主義は、実質上は一種の国家独占資本主義であり、国家は依然として資本家階級の国家であり、それはエンゲルスがすでに以前に述べている如く、「現代国家……それはいよいよ生産力の一層多くを自己の手中に掌握し、それはいよいよ益々全面的に全体主義的資本主義に転化し、いよいよ益々多くの国民を搾取する。労働者は依然として雇傭労働者であり、無産者である。資本主義関係は消滅されないばかりか、かえつて極点に達し、頂点に達す

(12) このような国家独占資本主義の出現は、また独占資本家階級と国家権力との結合が益々緊密になることを標示し、独占資本家階級の国家権力に対する支配が益々深化すること
を標示し、国家権力を益々都合よく財政寡頭の利益に奉仕させ、労働人民に対する掠奪と搾取を激しくする。さらにレーニンのいう如く、「国家は無限の権力をもつ資本家集団と益々緊密に融合することとなり、労働大衆に対する残酷な圧迫は、いよいよ人を驚かすものとなつて来る」。(13)

中国人民は帝国主義の独占資本による長期にわたる侵略と
庄迫の悲惨な経験をもち、また中国独占資本による長期にわたる支配と搾取の悲痛な経験をもっているので、現代修正主義者の巧言麗句も中国労働人民を欺騙するものとはならない。
なお中国人民はさらに重要な経験をもっている。すなわち、このような反動的な国家独占資本主義に対しては、労働者階級が起ち上つて官僚資本家階級の国家機関を粉碎し、それを没収して全人民の所有とし、さらに労働者階級の指導する国家の所有にしてのみ、人民は解放を獲得し得るに過ぎないという経験を。同時にまたこのようにして初めてプロレタリア独裁制度の下における国家資本主義は可能となるのであり、非

独占的、小中資本主義商工業を、国家資本主義の形式を通じて、一步一步と順序よく秩序正しく社会主義商工業に転化させることが可能となるのである。

四、わが国における資本主義商工業改造の勝利は、労働者階級が一定の条件の下で資本家階級に買戻し政策を実行することに関するマルクス・レーニン主義の思想を実現しかつ豊富にし、国家資本主義の発展と結合した各種の買戻し形式を創造した。

わが国の社会主義改造においては、民族資本家階級に対する買戻しと国家資本主義とは結合して行われた。わが国の民族資本家階級に対する買戻しは、国家から特別に何らかの金銭が支出されたのではなく、労働者が国家と人民の需要のために生産する時に、資本家のためにも一部の利潤を生産し、買戻しの代価としたのである。

わが国は買戻しと国家資本主義とを結合して行い、国家資本主義の異った発展段階においては、異った買戻し形式を創造した。このような買戻し形式の発展は、異った段階における国家資本主義的生産関係の変化を反映しており、剰余価値

の生産が逐次的に制限を受けつつあったことを反映している。同時に、買戻しが一種の制度となり、それが逆に国家資本主義の発展に対し、また生産関係の発展に対しても、重要な作用を發揮している。資本主義商工業が国家管理・国営経済の指導と労働者大衆の監督下にある資本主義商工業に転化した時には、それはすでに国家資本主義的な若干の性質をもっているのである。しかし、企業内部の生産関係の変化はなお不明確で、基本的にはなお剰余価値のために生産していたのである。このような状況に適応した買戻し形式は「私営企業暫行条例」に規定するところの資本家が配当を取得することの許可であり、したがって剰余金額からの利益金の取得である。このような弁法は有利に資本を有益な事業に投資するように鼓舞し、同時にまた一定の程度以上の資本の搾取を制限した。企業が国家資本主義の初級形式に入って以後は、剰余価値の生産は明確な制限を受け、労働者はすでに異った程度ではあるが、国家計画の任務を完成するために労働し、一部分はすでに社会的労働になっている。この時には「四者に剰余金分配」という買戻し形式を採ったのである。それは生産関係のこのような変化を反映しており、剰余金の比較的大きな部分が社会

主義のための蓄積と分配になった。同時にまたそれに比例して資本家には一定の利潤を与え、かくして資本主義を吸収して国家資本主義形式に入れ、資本家的生産経営の積極的作用を鼓舞したのである。全業種の公私合営化の後には、定息制度を實行し、さらに資本家に高い給与と人事配置を保留することなどによって補足した。このような買戻し形式は公私合営企業内の私的持分を生産手段の占有と支配から離脱させ、資本の機能を失わせ、したがって根本的に資本主義的生産關係を变革させた。しかし、定息を一種の制度として普遍的に實行することは、国家資本主義の發展がその最高段階に到達したのである。しかも、それは全企業の公私合営化の後に国家が統一的に各企業の人力・物力およびいろいろな要求を調整発動させたことに基くのであり、それは分配關係から、所有制の根本的变革を具現し促進したのである。

わが国における買戻し方式のこのような性質は、それが生産手段の等価物ではなく、売買關係でないことを決定している。買戻しの代価は、要するに、資本家階級が占有する生産手段の価値で決定せず、社会主義改造の必要によって決定す

るのである。

買戻し形式は国家資本主義の發展と密接な關係があるだけでなく、實際上それは各時期における革命の任務と要求に基いて決定されるものである。買戻し政策の實行は、わが国の労働者階級と民族資本家階級との連盟すなわち時には連合、時には闘争という統一戦線が社会主義革命において繼續し作用を發揮し得たところの要素の一つであり、また民族資本家階級がそれほど努力せずに社会主義改造を受け入れ得たところの原因の一つでもある。それは党が正確に労働者階級と資本家階級との間の矛盾を処理した一面である。買戻しはプロレタリア革命の政治的任務に奉仕するものである。国家資本主義が初級形式にあった当時は、利潤分配という買戻し形式が最も妥当であった。国家資本主義が高級形式に入ってからにおける、定息の形式（その他の買戻し形式たとえば資本家工作を安排し、彼らの比較的高い給与を保留するなど）はまた新しい段階の階級關係と階級矛盾を適切に具現している。毛沢東同志の述べている如く、「一面において、資本家階級はすでに公私合営企業における管理人となり、正に搾取者から変じてその能力で生活する労働者に転化する過程にある。

他面において、彼らは現在なお公私合営企業において定息を取りつつあり、結局、彼らの搾取の根源はまだ離脱していない。彼らはまだ労働階級の思想感情・生活習慣と少なからざる距離がある。⁽¹⁴⁾かくして、定息の方法を実行したことは、資本家階級が思想上および生活上における自分自身の変革に對して余裕をもって配慮させることができる期間であり、彼らが政治思想の改造を進めるのに有利であり、同時にまた労働者階級には一歩進んで彼らの搾取根源を消滅し政治上思想上から階級を消滅する革命の任務を提示している。このような方法は、また疑いもなく資本家階級の積極的要素を動員し、社会主義に服務させるのに有利でもあった。

マルクス主義者は従来から搾取階級に対する買戻しを、プロレタリアートが最小の代価で革命の最大の勝利に取り換える一つの手段と看なしている。この意義においていうならば、買戻しはどのような形式を採ろうとも決して基本的なものではない。たとえばエンゲルスがかつて想定した紙幣による買戻しの方法の如くである。わが国においてはある場合にはその他の形式の買戻しを実行した。たとえばチベットの民主改革において叛乱に参加しなかつた農奴主およびその代理人の

占有する土地や余分の家屋・耕畜・農具などに対して買戻しを実行し、反帝愛国で民主改革を受容した農奴主およびその代理人に對しては政治上では配慮し、生活上では援助を与えたなどの如くである。しかしその如何を問わず、買戻しの過程において現われるすべてのことは、政治関係と経済関係を含めて、労働者階級と搾取階級との間の階級関係であり、それはすべて労働者階級の政治目的のために奉仕するものであって、個人と個人あるいは国家と個人との間の関係ではなく、純経済上の売買関係ではない。このような買戻し関係の根拠は労働者階級の独裁と搾取階級の改造受容の可能性である。買戻しの可能性と現実性は、結局において階級の力の對比で決定する。エンゲルスは「独仏の農民問題」において大土地所有者没収に説きおよんだ時に述べている、「この没収を買戻し方法を用いて実行すべきか否かに至っては、その大半はわれわれで決定されず、われわれが政権を取得した時の情況で決定されるのであり、特にそれは大土地所有者のボスたち自身の行為で決定されるのである」⁽¹⁵⁾と。レーニンもまた資本家階級に對する買戻し実行に説きおよんだ時に、「環境が資本家に平和的屈服を迫り」それらの「決心がソヴェト政權

のために奉仕し」「プロレタリアートに対して有益である」⁽¹⁶⁾
資本家を指すのだといっている。

すでに一九五〇年に、毛沢東同志は人民政治協商会議第一回全国委員会第二次会議において次の如く指摘している。革命戦争の中で、また革命の土地制度改革の中で貢献があり、また今後多年にわたる経済建設と文化建設の中で貢献がある人々のみが、いつか工業国有化と農業社会化を實行する時に、「人民は彼らを忘れないし、彼らの前途には光明がある」と。また、「真理を肯定して人民のために力を尽し、人民がなお困難な時には確実に援助を与え、よいことをし、しかも一貫して行い、途中で止めないならば、その結果として、人民と人民政府は彼を必要としない理由はなく、彼に生活の機会と力を尽す機会を与えない理由はない」と。毛沢東同志のこれらの指示も、またわが国が民族資本家階級に対して実行した買戻し政策の基本的指導思想である。

買戻しに含まれる意義は、異った社会制度の下においてはその性質は完全に異ったものである。正にレーニンが正しく教えている如く、われわれは必ず資本主義制度下とプロレタリア独裁下という根本的に異った性質の「国家資本主義」を区

別しなければならず、またわれわれは必ずこの兩種の異った制度の下における「買戻し」を区別しなければならない。ブルードン式の「労働者買戻し金」、あるいは社会民主党の「国有化」買戻し金、ないしは最近あるブルジョア政府が土地改革の實行中に地主階級に与えた買戻し債権であるを問わず、すべてはマルクス・レーニン主義の買戻しと毫も共通するところがない。これらの「買戻し」はいずれも根本において資本主義制度に触れず、さらにいずれも一種の分割払式の売買関係と殆んど異なる。ブルードンは「買戻し」を労働者と資本家（あるいは家主）との間の売買関係とし、その目的はプロレタリアートを手工業式のプチ・ブルジョアに変えることであるとしている。このような「買戻し」は一種の反歴史的な反動的思想であって、すでに早くからマルクスとエンゲルスは批判していた。社会民主党の「国有化」は、資本主義所有制を改変しただけでなく、反って資本主義所有制を強化し、労働者階級に対する搾取を加重した。もしそれとプロレタリア革命との関連についていえば、それはただ階級矛盾と階級闘争を深化しただけである。

五、わが国における資本主義商工業の社会主義改造においては、引続き資本家階級分子に対する改造を、徹底的な階級消滅の重要任務となし、政治戦線と思想戦線における社会主義革命の重要任務として進めて来た。革命の実践において、資本家階級を教育し改造する方法と経験を創造し、マルクス・レーニン主義の社会主義革命と階級消滅に関する学説を豊富にした。

如何なる革命もすべて一定の階級の消滅を表している。毛沢東同志は従来から消滅される階級の構成員を改造することを徹底的に革命事業を完成し徹底的に搾取階級を消滅するたための重要な一環としている。一九四九年に、民主革命が全国的に勝利を得た時、毛沢東同志は人民が打倒した支配階級の成員を改造することを徹底的に民主革命を完成するための任務とし、さらにこの「工作を立派に行つてのみ、中国の主要な搾取階級——地主階級と官僚資本家階級すなわち独占階級——は最終的に消滅⁽¹⁸⁾」するに過ぎないと指摘している。社会主義革命の段階において、毛沢東同志はさらに一層民族資本家階級に対する改造工作を重視し、それを徹底的に社会主義革命を完成し階級を消滅するための一任務としただけでなく、

明確に政治戦線と思想戦線上の社会主義革命として提起し、それを社会主義革命のための一重要構成部分として完成した。社会主義改造の過程において、資本家階級を経済上においては搾取者の地位を剝奪するだけでなく、彼らの階級の地位を改革し、さらに根本的には彼らの政治的立場を改造し、彼らの階級の本質を改革し、彼らを自覚した社会主義のための労働者とするよう要求した。

マルクス・レーニン主義の存在が意識を決定し、意識がまた存在に反作用するという弁証法の原理に基づき、毛沢東同志は従来から、革命事業を発展させるために、人々は改造を必要とし、人は改造することができるものであると主張している。一九三七年に毛沢東同志は次の如く述べている、「プロレタリアートと革命人民の世界を改造する闘争は、客観世界の改造、および自己の主観世界の改造をも含む。」「いわゆる改造される客観世界は、その中に一切の改造反対の人々を含み、彼らが改造されるためには、強迫の段階を通じなければならず、その後初めて自覚の段階に進み得るのである」と⁽¹⁹⁾。一九五七年に毛沢東同志はさらに次の如く指摘している、「社会主義社会の建設過程において、人々は改造を必要とし、搾

取者は改造を必要とし、労働者もまた改造を必要とする」と。⁽²⁰⁾

わが国がこのような大規模に計画的に搾取者を改造して労働者としたことは、歴史上始めてのことである。このような改造はどのような具体的歴史的條件を必要として初めてその実現が保証され得たのだろうか。

このような改造は、ただ労働者階級が政権をとり、強大なプロレタリア独裁が打ち建てられた後においてのみ可能であった。わが国における党の指導と人民民主独裁の国家権力は、資本家階級を改造するのにまず依拠すべき根本条件であった。マルクス・レーニン主義の古典の作者がまず労働者階級に提起した政治支配は「社会に対して社会主義改造を進める基礎」⁽²¹⁾である。毛沢東同志は正にこの原理に基きさらに一歩を進めて次の如く指摘している、「人民の国家があつてこそ、人民は全国範圍および全体的規模で、民主的方法により、自己を教育し自己を改造し、自己を内外反動派の影響から離脱させ（この影響は現在もなお甚だ大きく、さらに長期にわたって存在し、急速には消滅できない）、自己を旧社会から得た悪い習慣や思想から改造し、自己を反動派の指導する錯誤した戦線に進ませず、さらに継続して前進し、社会主義と

共産主義に向わせることができるのである」と。⁽²²⁾

わが国は党の指導権と人民民主独裁の壮大さと強固さとの同時存在により、わが国の生産手段所有制の社会主義革命もまた偉大な勝利を得たのであった。一九五六年の社会主義改造の高潮後、社会主義はわが国においてはすでに全面的な経済体系となつている。民族資本家階級から見れば、彼らはすでに自己の企業を引渡してしまつて、他人の労働を搾取する条件、すなわち自己の階級存在の経済基礎を失つている。この階級を構成する構成員に対していえば、彼らの社会経済的地位の重大な変革、すなわち一つの経済的地位から他の経済的地位への転化を開始したことを意味する。社会生活においては、まず人々の物質的地位に変化が生じ、その後、初めて人々の意識はそれに応じて変化が生じ得るに過ぎないのである。マルクス主義の存在は意識を決定するという唯物主義の原理に基き、わが国の社会経済的條件の根本的変化、資本家階級の経済的地位の変化は、いずれも重要な社会的存在をなし、資本家階級の意識形態の改造に対し、決定的な影響を生じさせたことはいふまでもない。

わが国の民族資本家階級は二面性をもつ階級であつて、彼

らの二面性のうちの共産党の指導を受け、社会主義改造を受容する積極性の一面は、わが国の労働者階級が社会主義革命の段階において民族資本家階級と統一戦線の関係を保持する重要な根拠であり、またわが国が資本家階級に対して政治的思想的改造を進める重要な内在的根拠であった。ただこのような状況においてのみ、労働者階級は彼らに対する説得教育の方法を採り得たのであり、彼らの積極性の一面を鼓舞し、彼らの消極性の一面に対して批判と必要な斗争を進めることができたのである。十数年来、わが国は人民民主統一戦線という教育と斗争を経て、すでに資本家階級にあまり強いことなく生産手段所有制の改造を受け入れさせ、さらに政治上の改造においては非常な進歩を得たのであった。

社会主義革命は長期の過程を経る必要がある。資本家階級に対する社会主義改造は、徹底的に階級を消滅する革命的任務を要求するだけでなく、この過程において、逐次的に資本家階級を改造し、彼らを革命の各段階が要求する政治的水準と思想的水準にまで引上げ、社会主義革命の発展の必要に適応させることが必要である。

国民経済の恢復期において、労働者階級は自己の指導する

国家権力と国营経済を建設するや否や、また国民経済を恢復するという大きな困難な任務に直面した。資本家階級はこの時期においてもなお最後のには彼らのブルジョア共和国という幻想を放棄せず、資本主義の発展という強烈な願望をもっていた。この時期の資本家階級に対する改造は、主として彼らに政治上における労働者階級の指導を承認し、第三の道という幻想を放棄し、経済上では国营経済の指導に服従し、さらに愛国守法、積極経営、国民経済の恢復と発展のために奉仕するよう要求することであった。一九五三年に党は過渡期の総路線を宣布した後、全面的に農業・手工業および資本主義商工業の社会主義改造を展開し、労働者階級と資本家階級の矛盾は所有制改造の問題に集中的に現われた。この時、党と政府は資本家階級が認識を高める基礎の上に、積極的に国家資本主義を受け入れるよう、大勢を認識し、公私合営を実現するように要求した。かようにして所有制の社会主義改造の中で、阻碍力は減少し、援助力は増加し、それによって消極的要素を積極的要素に変えることができたのである。

生産手段所有制の革命が基本的に完成した後、わが国における社会主義と資本主義との二つの道の矛盾と斗争は、集中

的に政治上、思想上に現われて来た。この時、資本家階級に対しては政治的立場の根本的改造を進め、資本家階級の政治的思想的影響を除去し、それによって社会主義の経済的基礎の要求に適応させ、さらに進んで生産力の発展のために道を開くことを、社会主義革命の主要任務とした。政治的立場は人間の階級性の集中的表現であり、人の思想認識と思想方法はすべて彼らの立場から決定されるものである。正に毛沢東同志の如く、立場によって、「各種の具体的事物に対して採るところの具体的態度」⁽²³⁾が生ずるのである。かくして、政治的立場の改造は資本家階級が改造して労働者となる主要かつ基本的問題であった。資本家階級がまだ生産手段を掌握している時には、彼らの階級的地位はまだ改革されていないので、労働者階級が彼らに政治的立場を改造する要求を提出することは不可能であった。資本主義経済が社会主義に根本的に変革した後においては、資本家階級がまず立場を改造して初めて社会主義の経済的基礎に適應することができ、新しい立脚点を得て自己の思想認識を一步進めて改造することができるのである。また改造の立場があつて初めて、一層よく社会主義に奉仕することができるのである。

管大同『中国における資本主義商工業の社会主義改造』

社会意識は相対的独自性をもつことにより、意識形態の変革は経済基礎および政治制度の変革に比して長期間を要し、さらに逐次的に変化できるに過ぎない。これは意識形態自身の運動の法則性の規定するところである。わが国の資本家階級に対する改造は企業改造と社会経済的基礎の変革後の要求につれて次第に深化し、順序にしたがって進んだ。これは正確に意識形態の革命というこのような規定性を具現しているだけでなく、経済的基礎と上層建築との間の相互促進という弁証法の非常に高度な運用を具現している。

資本家階級を改造する経路と方法は、根本的にいえば二つであり、一つは社会主義のために奉仕する実践であり、一つは政治・思想教育である。

実践は生産斗争と階級斗争とを含み、人々は生産斗争と階級斗争の中で客観世界を改造し、同時に主観世界を改造し、自己の政治的立場と思想認識を決定するのである。かくして生産斗争と階級斗争の実践は資本家階級を改造する基本的経路である。しかし資本家階級の改造は自発的に進むものではなく、先進階級の指導と教育が必要であり、さらに主観的能動的作用を發揮する必要がある。これはただ資本家階級に対

して教育を進めるだけでなく、絶えず思想認識を高めて、初めて、正確に実践を指導することができるのである。

資本家階級がまだ生産手段を占有している時には、彼らに対する改造は主として各種の政治運動を通じ、企業の改組改造の実践を通じ、労働者の監督と彼らに対する愛国守法の教育と教育政策を通じ、企業改造と人的改造とを結合して進めるのである。所有制の改造が基本的に完成した以後は、資本家階級を社会主義的性質の企業に配置し、国家代表の直接指導と労働者大衆の直接監督の下での工作と労働は、業務と労働の実践と政治思想教育とを結合した方法を採用して彼らを改造することができるのである。これは党が提起したところの政治思想教育を指導とし、労働と工作の実践を基礎とし、企業と工作の単位を基地とし、しかも密接に結合して進めるという方針である。

政治思想の改造を進めることは、資本家階級に対していえば、彼ら個人の認識の発展過程である。資本家階級に彼らの経験するこのような変革の現実性を認識するように要求し、さらに彼らにこれらの変革の必然性を認識するように要求して初めて、新しい認識の基礎の上に、自覚的に一歩進んだ改

造を受け入れることができるのである。すなわち、彼らに資本主義を破棄し、社会主義を建設するという改造を要求することは、正に感性的認識から理性的認識に至らせることである。このような発展は必ず実践を基礎としなければならず、実践において統一すれば、理性的認識は再び実践に帰るのである。かくして、資本家階級に教育、改造を進める過程においては、実践と離れることはできない。

同時に、政治思想教育の実践に対する指導、理論の自己改造に対する指導は、如何なる時においても極めて重要である。当然なことであるが、資本家階級がまだ生産手段を占有し、資本主義生産の経営を進めている時には、彼らのこのような実践は社会主義と矛盾するものであった。しかし、労働者階級が彼らに政治思想教育を進める中で、初めて彼らの思想にこのような矛盾を暴露することができるのであり、彼らの従来から資本主義思想に充満した頭脳の中に一つの対立面を樹立させることによって初めて、次第に自己の搾取行為を認識させることができ、それによって遂には搾取を恥ずる認識にまで到達させることができるのである。労働者が彼らに対して各種の政策的教育を進める中で、初めて彼らに比較的自

覺して法を守り経営を進めさせ、積極的に國家の任務を完成させることができるのである。所有制の改造が基本的に完成し、政治的立場の根本的改造に進んだ段階の後においては、政治思想教育は一層重要な作用をもつ。この時には、彼らの工作と労働は客観的にはすでに社会主義に奉仕するものとなっているが、しかし、彼らは主観的には資本主義の政治的立場と思想意識であつて、このような実践と矛盾するものである。この時には、政治思想教育は矛盾を暴露するだけでなく、自覚を高め、改造の作用を促進するだけでなく、さらに直接に実践を指導する作用をもつ。資本家階級はただ政治的に武装し、学習を強化するだけでなく、認識と自覚を高めることができる基礎の上でのみ、立派に奉仕し、立派に改造することができると過ぎない。

資本家階級の改造は人民内部の思想改造である。人民内部の思想改造は、結局において一種の自己改造に帰着する。自己改造は自覚によらねばならない。社会主義の意識形態は、資本主義の意識形態とは、根本的に対立するものであつて、資本家階級はその階級の本質からすれば、資本主義を改造する立場とは抵触するものである。彼らが本能的にこのような

自覚をもつことは不可能である。しかし、社会主義改造の高潮期後においては、資本主義經濟の基本的消滅により、資本主義の意識形態はすでにそれが依存していた經濟的基礎がなくなり始め、民族資本家階級もまたその階級の本性を改造する客観的条件を獲得し始めるのである。同時に、民族資本家階級はその思想性格の中にお反帝愛國および共產黨の指導を受け、社会主義改造を受けることのできる積極的要素をもっている。これらはいずれも資本家階級の中で政治思想改造の自覚性を培養させることを可能にする。重要な問題は労働者階級がいろいろな實際の生活・實際の斗争および政治理論の学習など各方面から教育を進め、彼らに進歩的な革命的影響を与え、彼らが社会發展法則に対して比較的に深刻な認識をもつことを援助し、政治思想改造の必然性と必要性について比較的に深刻な認識をもつように援助する必要があることである。かようにして、資本家階級の根本的改造に対する自覚性は、彼らの中で無から有に、少から多に培養することができるのである。

わが國の労働者階級が資本家階級に対して政治思想の改造を進める過程で、その進めたところの一系列の教育と闘争は、

もとより資本家階級に対しては主として外部的力の援助として現われ、若干の斗争は一定の意義においてなお一種の強制力でもあった。しかしこのような外部教育と自己教育とは相補い合うものである。労働者階級のこのような教育と斗争は、大部分は民主的・説得教育の方式を採り、資本家階級を通じて進められたのである。これは資本家階級に対していえば彼らのための自己教育と自己改造として現われるのである。党が資本家階級の進める自己教育と自己改造を指導し援助することは、労働者階級の彼らに対する教育を資本家階級の自己教育に転化することである。この外部教育と自己教育の対立的統一の発展転化過程は、正に資本家階級が改造した自覚性を培養し發揮する過程でもある。資本家階級の改造が次第に進んで労働人民の一部分となる段階の後においては、資本家階級が改造した自覚性を培養し發揮することは、すでに労働者階級が彼らに対して進める改造工作の一重要工作となっている。党が提起したところの政治思想教育を指針とし、労働と工作実践を基礎とし、企業と工作職場を基地とする方針は、外部教育と自己教育の結合を一つの新しい高度に引上げたのであり、資本家階級の改造した自覚性を培養する工作

が一つの新しい水準に到達したことでもある。

わが国の民族資本家階級は先天的に社会主義改造の自覚性をもっている、とする人がある。また、わが国の民族資本家階級は社会主義改造に対して自覚性をもつことは不可能である、とする人もある。かくして、彼らはいずれも自覚性の培養は不必要なものであるとする。この二つの観点はいずれも誤っている。前者は搾取階級の改造と労働人民の改造とは根本的に性質の異なる二つの範疇であり、労働者階級の改造を受入れることを経て初めて自覚的に改造に進むことができるに過ぎないということを見ない。後者は労働者階級の改造を受入れることと自覚的に改造を進めることを絶対的に対立させ、それらの間の転化可能を見ない。毛沢東同志はいう、「矛盾しつつあるものの対立する双方は相互に斗争の結果、一定の条件の下で相互に転化しないものはない。ここにおいては、条件が重要である」と。⁽²⁴⁾ われわれは次のように老えるべきである。すなわち資本家階級の改造は、外部教育を自己教育に転化することができ、改造を受入れることを自覚的改造に転化することもできると。労働者階級の政治思想的影響や、マルクス主義先進理論の影響はこのような転化の決定的条件で

ある。以上の二つの観点は、いずれも必然的に労働者階級の政治思想教育とマルクス主義先進思想の影響が資本家階級の自覚性を培養することについての作用の否認に導くが、これは実際工作の上で、いずれも有害であることに間違いない。

わが国の資本家階級に対する改造は、団結―批判―団結の原則に従うのであり、説得教育の方法を採って進められるものである。改造の深化と発展に適応して、異った教育形式が必要である。

団結―批判―団結の原則に基づき、説得教育の方法を採って資本家階級を改造することは、中国の労働者階級と民族資本家階級とが階級斗争を進めた基本的方法である。このような改造工作は、主として各種の政治運動と結合し、企業改造の實踐と結合し、社会主義に奉仕する實踐と結合し、深刻できめこまかな思想教育工作を通じて進められたのである。しかし一定の条件の下では、尖鋭な階級斗争の形式を通ずる必要もある。たとえば一九五〇年と一九五二年における資本家階級の不法行為に対する斗争、一九五七年における資本家階級右派に対する斗争の如くに、ただ温和な長期にわたる思想教育と厳粛な批判斗争とを結合して初めて、彼らの積極性を発

展させ彼らの消極性を除去し、さらに一層彼らを改造することができると過ぎない。一九五八年以前において、中国労働者階級は民族資本家階級と何回も彼らから挑発して来た激烈な大斗争を行い、さらに彼らに対して多くの日常的な教育工作を行って初めて、次第に彼らを消極的ながらも社会主義改造を受入れさせることができたのである。

整風運動・反右派斗争、特に国民経済の大躍進を経た後は、資本家階級は政治思想の上で非常に進歩し、改造の自覚性もまた相当に向上し、資本家階級の中にも自己教育と自己改造が次第に増加した。このような情況の下で、労働者階級の教育、批判もまた一層多く資本家階級のための自己教育と自己批判に転化することができた。温和でしつとりした批判の形式もまた一層広汎に用いることができた。これは「神仏会」の教育形式の出現である。「神仏会」が具現するところの温和でしつとりという精神と自から問題を提出し、自から問題を分析し、自から問題を解決するという方法は、正に資本家階級が大いに進歩した情況の下においては、党の人民内部の矛盾を処理する方針と政策に基づいて採るところの自己教育と自己改造を進める有効な方法である。

しかし、資本家階級がなお存在し、資本家階級の政治思想の改造がまだ最後の完成をしていないのであれば、労働者階級と資本家階級との間の社会主義と資本主義との二つの路線についての斗争は常に不可避的である。過渡期の階級斗争の複雑性と、資本家階級の大部分の人々がまだ動揺と反復の狀態にあるために、この斗争もまた、必然的に一進一退の状況にならざるを得ない。顛覆された反動支配階級と民族資本家階級の一部分の人々が革命に反抗し、労働者階級に攻撃を加える時期においては、労働者階級は尖鋭な階級斗争を経ねばならず、そうして初めてこのような逆流を撃退することができる。資本家階級の一部の人々が社会主義の路線上で非常な動揺を現わした時には、労働者階級は必ず状況に基き彼らに対して嚴重な批判と斗争を行う必要がある、そうして初めて彼らの政治的方向を正しくし、彼らの改造成果を強固にすることができるのである。かくして、さらに広汎に経常的には温和でしつとりとした教育方式を採用し、しかも社会主義に反対する若干の人々に対しては尖鋭な斗争を排除しないのである。階級斗争の状況に基き、正確に両者を結合させずれば、次第に資本家階級の大部分の人々を社会主義改造の道に向わ

せ、自覚的な社会主義労働者に改造することを指導し促進することができるのである。

わが国の資本家階級に対する改造は、資本家階級の分化を通じて次第に実現されたものであって、このような分化の法則を掌握することは、改造工作を促進する一つの重要な面である。

社会の階級は一枚岩ではなく、その他の事物と同様に、常に運動し変化するものである。私有制を基礎とする階級は、その発展において、その斗争過程において、必然的に分化せざるを得ない。彼らの階級斗争における分化とは、一部の人々のその対立面へのいろいろな程度での移行である。マルクス・エンゲルスがかつて指摘している如く、階級斗争が決戦に接近する時には、従来から支配階級のうちの一部の人々が離脱して革命階級に帰属したものである。しかし歴史上資本家階級の分化の多くは自然発生的に進んだのである。わが国の資本家階級に対する改造は意識的にこのような法則を利用して、階級分化の促進を通じて大規模に逐次的に搾取者を改造して労働者となし、それによってこの階級の徹底的な消滅に役立てたのである。

場の改造および資本家階級の政治思想の影響を肅清することの物質的前提を創造した。かくして、党はさらに政治戦線と思想戦線において引き続き、社会主義革命を進める任務を提起し、上層建築のそれぞれの領域を一步進めて社会主義的経済基礎に適応できるようにした。同時に、すでに建設されつつある社会主義的生産手段の所有制の基礎の上に、生産過程における人と人との関係の調整を進め、社会主義的生産関係が健全に発展を進めることができるようにした。かくして、一九五七年から一九五八年にかけて反右派斗争と整風運動を進めた。反右派斗争と整風運動を経て、社会主義に対する資本家階級右派は人民の中で徹底的に孤立化し、大多数の資本家階級は政治的方向を正しくし、政治思想の認識もまた大いに高まった。

経済戦線・政治戦線および思想戦線における社会主義革命の偉大な勝利、広大な労働人民の社会主義意識と積極性の大きな高まり、社会生産力が空前の解放を獲得したことにより、党中央と毛沢東同志は続いてわが国の社会主義建設の総路線、すなわち、大いに努力し、大いに向上に心がけ、より多く、より早く、より好く、より節約して社会主義を建設すること

を提起した。この総路線の根本的意義は社会主義制度が提供するところの社会的生産力を発展させる巨大な可能性を充分に利用し、一切の積極的要素を動員し、一切の団結可能な力量を団結し、同時に二組の「二つの進路」の方針を實行し、計画的に均衡かつ急速にわが国経済を発展させ、わが国を迅速に後進国家から先進国家に移行させることにあった。社会主義建設が発展する必要に適應して、党と政府は資本家階級に対する工作を重要工作の一つとした。資本家階級に対する改造は実践と思想教育の結合の中で進められるべきものである。彼らの社会主義に奉仕する積極性を動員し、彼らが社会主義建設に参加する中で政治的立場の根本的改造を進めることを援助した。これは国家に対して有利であり、ブルジョア商工業者に対しても有利であった。

わが国における資本主義商工業に対する社会主義改造は、その全発展過程において、いくつかの相互連系および相互区別の段階を形成している。相対的にいえば、それらは量が質を変える比較的小きな発展段階に属し、したがって比較的小きな段階が他の比較的小きな段階に発展することも、部分的な比較的小きな質的变化である。党と政府はこの法則を掌

毛沢東同志は述べている。「どんな大衆の場合でも、大体において比較的に積極的な人々、中間的狀態の人々および比較的遅れた人々の三部分がある。だから指導者は必ず少数の積極分子とよく団結して指導の骨髄とし、この骨髄に依拠して中間分子を引上げ、落後分子を仲間に入れなければならない」と。(25)

党と労働者階級は資本家階級に対する改造工作において、このような大衆路線の工作方法を採り、しかも資本家階級には細心の工作を進め、一群の進歩的核心分子を培養したのである。これらの進歩的核心分子は、所有制の改造において、先頭に立つ作用・骨髄となる作用および政府と商工業界との間の橋梁となる作用を發揮した。政治と思想戦線の斗争においては、党と労働者階級は資本家階級の政治上における左・中・右の新しい分野を掌握し、資本家階級内部の進歩的勢力を拡大し引上げ、中間分子と落後分子とも団結し、仲間に入れ、教育し、右派分子を孤立化し分化させ、整風運動と反右派斗争の勝利を得たのである。資本家階級に対する根本的改造を進める工作の中で、党と労働者階級は毛沢東同志が提起したところの六項目の政治目標と自力更生を準則とし、政治思想の教育工作を通じ、彼らを指導して社会主義のため

に奉仕する実践を通して、資本家階級の中に最初の分化を引起した。その最初は一部の人々が基本的に社会主義的立場に転化して来たこと、すなわち政治上では基本的に労働者の周辺に到達して来たことであり、一部の人々はすでに比較的ゆるやかではあるが、すでに自覚的な社会主義労働者になっている。その後、比較的多くの人々が、それからさらに多くの人々が、次第に、次から次へと基本的に社会主義的立場に転化し、さらに自覚的な社会主義労働者に転化した。継続して資本家階級に対する改造を強化すれば、資本家階級の大多数を労働人民に転化することは可能である。

× × ×

中国共産党はわが国家のあらゆる活動の指導中心であり、党の絶対的指導はわが国の社会主義革命と社会主義建設におけるあらゆる工作の勝利の根本的保証である。われわれの党は長期にわたる革命斗争の中で鍛錬され、しかもすでに完全に革命指導が芸術にまで熟練した党である。それはマルクス・レーニン主義によって武装され、マルクス・レーニン主義の普遍的真理と中国における革命と建設の実践を結合した思想―毛沢東思想―をあらゆる工作の指針としている。資本

主義商工業と資本家階級に対する社会主義改造は一つの革命の実践であり、それは中国革命の条件と要求に適合したものである。この改造の勝利は、マルクス・レーニン主義の勝利であり、毛沢東思想の勝利である。

十余年来、わが国の革命は毛沢東同志がマルクス・レーニン主義の原理に基いて闡明したところの継統革命論と革命発展段階論とを結合することに関する思想、社会主義革命と社会主義建設とを同時に並行して行うことに関する思想、敵との矛盾と人民内部の矛盾を区別し、正確に人民内部の矛盾を処理し、あらゆる積極的要素を動員することに関する思想などの指導の下に進められたものである。わが国の資本主義商工業と資本家階級に対する社会主義改造の勝利は、毛沢東同志のこれらの思想の偉大にして正確なことを輝かしく実証した。

わが国の資本主義商工業と資本家階級に対する社会主義改造はすでに偉大にして決定的な勝利を得たが、しかしまだ完成していない。それは外国帝国主義の陰謀と煽動によって、中国の反動勢力がなお最後の的に消滅していないことにより、さらに民族資本家階級の大部分の人々がまだ誠心誠意社会主

義になつていず、いろいろな程度の動搖状態にあるからである。わが国において、徹底的に階級を消滅することはなかなか長期の大きな困難のある斗争任務である。しかし、マルクス・レーニン主義の掌握と豊富な斗争経験とをもつ中国共産党と中国人民の英明な指導者毛沢東同志の正確な指導の下で、われわれは必ず徹底的にこの偉大な歴史的任務を完成することができるとし、それを疑う人は誰もない。

(1) マルクス・エンゲルス「共産党宣言」、「マルクス・エンゲルス全集」、第四巻、人民出版社一九五八年版、四八九頁。

(2) レーニン「ハンガリヤ労働者に敬意を表す」、「レーニン全集」、第二九巻、人民出版社一九五六年版、三五二頁。

(3) マルクス「一八四八年—一八五〇年のフランス階級闘争」、「マルクス・エンゲルス全集」、第七巻、人民出版社一九五九年版、一〇四頁。

(4) 「レーニン社会民主党的農民運動に対する態度」、「レーニン全集」、第九巻、人民出版社一九五九年版、二二二頁。

(5) レーニン「社会主義革命と民族自決権」、「レーニン全集」、第二二巻、人民出版社一九五八年版、一三八頁。

(6) 毛沢東「連合政府を論ず」、毛沢東選集、第三卷、人民出版社一九五三年第二版、一〇六〇頁。

(7) 劉少奇「マルクス・レーニン主義の中国における勝利」、人民出版社一九五九年版、九頁。

(8) 毛沢東「中国社会における各階級の分析」、毛沢東選集、第一卷人民出版社一九五二年第二版三頁。

(9) 毛沢東「矛盾論」、毛沢東選集、第一卷、人民出版社一九五二年第二版、三〇三頁。

(10) 毛沢東 同上、三一八頁。

(11) レーニン「国家と革命」、レーニン全集、人民出版社一九五八年版、三九九頁。

(12) エンゲルス「反デュリング論」、人民出版社一九五七年版、二九二頁。

(13) レーニン「国家と革命」、レーニン全集、第二卷、人民出版社一九五八年版、三七一頁。

(14) 毛沢東「正確に人民内部の問題を処理する問題について」、人民出版社一九五七年版、二〇頁。

(15) エンゲルス「独仏農民問題」、マルクス・エンゲルス選集(二巻集)、第二巻、ソ連外文出版社一九五五年版、四三九頁。

(16) レーニン「食糧税を論ず」、レーニン全集、第三卷、人民出版社一九五八年版、三二九頁。

(17) 毛沢東「中国人民政治協商会議第一期全国委員会第

二回会議における講話」、人民出版社一九五三年版、六一七頁。

(18) 毛沢東「人民民主独裁を論ず」、毛沢東選集、第四卷、人民出版社一九六〇年版、一四八二頁。

(19) 毛沢東「実践論」、毛沢東選集、第一卷、人民出版社一九五二年版、二八五頁。

(20) 毛沢東「正確に人民内部の矛盾を処理する問題について」、人民出版社一九五七年版、二〇頁。

(21) レーニン「国家と革命」、レーニン全集、第二卷、人民出版社一九五八年版、四七七頁。

(22) 毛沢東「人民民主独裁を論ず」、毛沢東選集、第四卷、人民出版社一九六〇年版、一四一八頁。

(23) 毛沢東「延安文芸座談会における講話」、毛沢東選集、第三卷、人民出版社一九五三年第一版、八五〇頁。

(24) 毛沢東「正確に人民内部の矛盾を処理する問題について」、人民出版社一九五七年版、三五頁。

(25) 毛沢東「指導方法の若干の問題について」、毛沢東選集、第三卷、人民出版社一九五五年第二版、九〇〇頁。